

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和5年6月30日

認定こども園さくら幼稚園・さくら保育園

## 1、 本園の教育

園訓「わたくしたちは、つよいからだとただしところをもったよいこなりましょう」のもと、生きる力の基礎を育み、心身ともに健康な子どもを育む。

## 2、 教育・保育の方針

・頭（HEAD）考える力を育む保育      ・心（HEART）心を育む保育      ・健康（HEALTH）健康な心と身体を育む保育  
・人間関係（HUMAN RELATION）人との関わりを育む保育

## 3、 目指す子ども像

・生き生きと遊ぶ子ども      ・豊かな心をもった子ども      ・元気な子ども      ・思いやりをもった子ども

## 4、 令和4年度重点的に取り組む目標・計画

- ・職員の連携の充実
- ・保育内容、保育計画の充実
- ・コロナ禍での保育や行事への取り組み方の再検討と衛生管理の徹底。
- ・保幼小連携の推進

## 5、 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	職員の連携の充実	C	<ul style="list-style-type: none"><li>・保育の充実を図ることを目的として、看護師、栄養士とも連携をもち保健指導や食育指導を行っていった。保健指導では、保健計画のねらいに沿って、看護師と相談しながら担任が指導したり看護師に話をしてもらったりと内容に合わせて効果的な方法を取りながら指導していくことができた。子ども達も担任だけではなく保健の先生が話をすることで意識が高まることも多かった。食育指導については、まずは園内の掲示などを用いて、園児や保護者に食を意識してもらうことから始めた。コロナ禍で栄養士と園児が直接交流することが難しかったが、今後は園児への食育指導等も取り入れていきたい。</li><li>・コロナ禍で、子ども達の学年間交流や職員同士の交流がなかなかもてなかったこともあり、保育士同士のつながりが希薄になっている。月案検討会や2学期後半以降は行事の立案なども学年から担当者が1人ずつ出て行うようにし、各学年の状況や子どもの育ちについて共有する場をもてるよう工夫した。</li></ul>
2	保育計画、保育内容の充実	B	<ul style="list-style-type: none"><li>・子どもの現状として、色々なことに興味をもちやってみようとしていたり自分の思いを伝えたりするが、やってみたい気持ちや伝えたい気持ちが強すぎて、相手の話や思いが聞けなかったり、周りの状況を考えずに行動してしまう姿がある。そこで「よく</li></ul>

			<p>見て、よく聞いて、よく考えて行動する子ども」の育成を本年度の重点に置き保育を進めていった。各クラスの保育はもちろん、集会などでも聞くことや考えることを意識できるよう話をしていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 保育内容、保育計画の充実に向け、固定グループを作り、全学年の学年便りをもとに研修をしたり、自分の保育を語ったりする機会を設けた。コロナ禍で集まれない時も資料を見て意見を付箋で貼るなど、思いを伝えあえるよう工夫しながら行うことができた。月案などの評価でも遊びを通して子ども達に何が育ちつつあるのか、どんな課題があるのかなどを考えようとする力がついてきている。</li> </ul>
3	<p>コロナ禍の保育や行事への新たな取り組みを考える。</p> <p>衛生管理などを充実する。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>• クラスまたは学年の保育を基本とし、早朝保育、延長保育以外の時間帯はクラス保育が行えるよう勤務体制なども工夫していった。</li> <li>• 保護者参加の行事は日時を分けたり参加人数を制限したりしながら行った。保護者が主体となって行なう「さくらまつり」は中止にしたが、保育者が主体となり子ども達と一緒に準備を行う「さくらまつりごっこ」として実施した。また、5歳児については最終学年のおまつりを保護者と一緒に楽しめるよう、クラスごとの分散開催で行った。保護者と一緒に参加できたことで子ども達も十分楽しむことができた。</li> <li>• 色々な行事を取りやめるのではなく現状に合わせて取り組み方を変えることで保護者の方にも子ども達の姿を見ていただくことができた。</li> <li>• 園児の送迎が玄関対応の時期が続いた。担任も玄関に出て、保護者とのコミュニケーションに繋げてきた。また、写真を主としたクラスだよりや子どもの育ちを伝える学年だよりを月1回発行し、保育や子ども達の姿を知らせることで保育理解にも繋がった。</li> </ul>
4	<p>面影小学校校区で互いの保育や教育の理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 年長児と面影小学校 1年生と5年生との交流</li> <li>• 保育士、小学校教諭の授業体験、保育体験</li> <li>• 合同の職員研修会</li> <li>• 接続カリキュラムの作</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>• コロナ禍でも行える交流を模索しながら行った。交流で育てたいことを考え、運動会練習の見学や夏休み中の校内見学など園児と児童が密にならない交流の在り方を工夫することができた。5年生との交流はコロナ流行期の為中止となった。</li> <li>• 保育士、教員同士がお互いの保育、教育を理解できる場をもつことを目的に、夏季休業中に小学校教諭による保育参観や参加の機会を設けた。園児の実態を多くの先生方に見てもらうことができた。また、推進リーダーが1年生のプールや5年生のゲストティーチャーとして授業体験をさせてもらった。卒園児の</li> </ul>

成	<p>成長や小学生の実態などを知るよい機会となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年中止となった研修を今年度は行うことができた。当初は対面で、2園1校の先生が混ざったグループでの討議を行う予定にしていたが、コロナ流行期の為、リモートでの開催となった。園での保育の写真から10の姿の読み取りを行い、園での育ちを小学校の先生に理解してもらう良い機会となった。</li> <li>・推進リーダーを中心に面影小学校との接続カリキュラムの作成を行っていった。育てたい資質・能力で項目を分けることで、園と小学校の育ちのつながりが分かりやすいよう工夫した。</li> </ul>
---	---

A=達成できた B=80%程度の達成度 C=60%程度の達成度 D=30%程度の達成度

## 6、 総合的な評価結果

結 果	理 由
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目指す子どもの姿に向け、何が育ちつつあるのかを学年だよりなどをもとに事例を挙げながら話し合うことができた。各学年担任が混在するグループで話し合うことで、それぞれの学年の目指す姿やそれに向けた保育者の関わり、子どもの育ちなどを共有することができた。</li> <li>・「見る、聞く、考える」ということを視点にもち保育を進めていった。様々な活動を通して、取り組む過程を認めたり成功体験を重ねたりしながら、意欲や自信につなげていくようにした。また、友達といっしょに遊ぶ楽しさを共有したり思いを伝えあうことで遊びが深まる経験を積み重ねたりしたことで、周りの人やものに目を向けてやってみようとする姿や相手の思いを聞こうとする姿が多くなった。</li> <li>・コロナ禍、今年度も例年通り行えない行事もあったが、現状に合わせた新たな考えを出し、行事や密を避けた保育の工夫に繋がった。また衛生管理にも気を配り、保護者の協力もあって色々な保育や行事に取り組めたことに感謝をしている。</li> <li>・新型コロナ警報の発令等により、保護者の送迎は年間通してほぼ玄関対応となったが、園の教育・保育について理解や信頼を得られている。地域の中でおおむね園への理解は得られているが、コロナ禍で地域の方との交流や子育て支援の事業がほとんど行えない状態となったことは残念である。コロナが収まったら、地域の公民館、老人施設等との交流を増やし、さらに地域貢献をしていきたいと思う。</li> </ul>

A=達成できた B=80%程度の達成度 C=60%程度の達成度 D=30%程度の達成度

## 7、 今後取り組むべき課題

	課題	具体的な取り組み方法
1、	職員の連携 保育内容・保育計画の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士同士がクラスや学年にこだわらず様々な場面で連携するという点において課題が残る。行事などを通して、主任だけでなく他の職員が学年間を超えて話し合う場をもったり、子ども同士の交流を通してお互いの子どもの様子を知ったりする場を設けていきたい。</li> <li>・学年会などの話し合いの場がもちにくいとの意見があった。フリーの先生に補充に入ってもらう前提ではなく、他学年から補充し合ったり、学年内で話し合いの方法を工夫したりするなど、学年の垣根を越えて助け合おうとする意識をもてるよう、体制を整えていきたい。</li> <li>・評価などを通して、子どもの姿から何が育ちつつあるのか読み取ろうとする意識がもてるようになってきた。今後は、育てたい姿を具体的にもち、活動を選択したりねらいに向けた保育者の関わりを考えたりする力を更につけていきたい。</li> </ul>

2	職員の安全管理意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在もヒヤリハットの共有、安全管理や不適切保育に関する研修などを行っているが、職員一人一人が自分のこととしてさらに意識できるよう、研修や振り返りを充実させていきたい。</li> </ul>
3	保幼小連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士、小学校教諭がお互いの保育、教育を語り合い、理解し合うための職員同士の交流や研修の機会を充実させていくことが必要だと感じる。その上で架け橋プログラム作成に向けて検討する場ももって行きたいと思う。</li> </ul>

## 8、 学校関係者の評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>・園が大好きで楽しみながら登園している。先生や友達との関わりの中で家庭ではできない様々な経験をする事ができ、成長を感じている。安全面にも配慮されていて安心して子どもを預けることができる。</li> <li>・朝夕、込み合う時間帯に駐車場の誘導があり、安全に駐車できるので有難い。</li> <li>・玄関対応でもいつも明るい挨拶で出迎えてもらい嬉しい。また、担任外の先生も子どもの名前を呼んでくれるなど丁寧に接してもらえる。</li> <li>・コロナ禍でなかなか園内の様子を見る事ができなかったが、写真を中心としたカラーのクラスだよりや連絡帳等を利用して保育の様子を伝える工夫がされていた。担任の先生と直接話ができる機会がもっとあるとよかった。</li> <li>・園の施設であるグラウンドや農園も、日々、散歩や体育活動、栽培活動、行事、行事時の保護者駐車場などにうまく活用しながら保育や行事が進められている。</li> <li>・ニュースで様々な事故を聞くが、園バスの対応や不適切保育に向けて再確認や研修等を通して職員の安全意識を高める工夫がされている。保護者アンケートなどでも保護者が保育や運営について理解や満足度が高いことはとても良いと思う。</li> </ul>
---